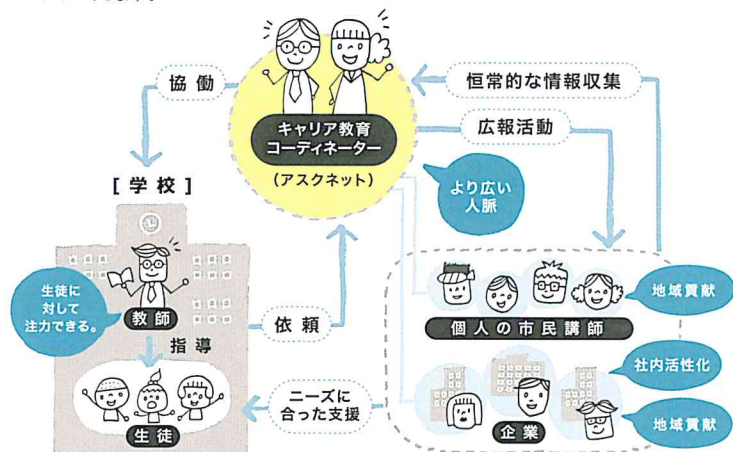


「キャリア教育」ってなんですか？

働くことと学ぶことを関連づけ、「生き方」をコーディネート

「こんな世の中になったらいいな」と願う社会をつくるために、自分ができる役割と、実現する方法を考えるための教育。具体的には、さまざまな知識や経験、特技を備えた市民が講師として教育現場に入り込み、生き方考えるための学びの場をつくり出す。その道のプロである「市民講師」、子どもたちに教えるプロである「教師」、両者をつなぐ「コーディネーター」。3者がそれぞれの専門性を活かして、子どもたちの学びをサポートします。



「コーディネーター」ってどんな人？

子どもと学びと地域の大人を、コーディネートする専門家です

対教育現場 多忙な先生方を陰でサポートし、教師力を存分に活かせる環境をつくる

学校での教員たちは日々の業務の多さから、意欲だけでは「キャリア教育」を進められない現状にあります。「コーディネーター」は、多忙な教員の方々をサポートし、理想的な「キャリア教育」を実現する役割を担います。外部講師を選び、交渉し、教育理念に共感していただき、学習の中での役割を果たしていただくための、すべてのことを行う存在です。「キャリア教育」を行いながらも、教員が生徒に向き合う時間を減らさないためには、専門のサポート役が必要です。

対地域社会 『キャリア教育』の理念と、働く大人が手にする成果を伝える

いきいきと働く大人と出会うことは、「働くこと」をまだ理解していない子どもたちにとって大切なことです。地域で働く市民や、その人たちが所属する企業が教育に関わることは、子どもたちのためになるだけではありません。子どもの強い好奇心や興味を示す目に触れ、自分の仕事を誇りに思ったり意義を深めたりするきっかけになります。企業という組織の中では、その新しい気付きが社内の活性化につながることもあります。CSR(企業の社会的責任)という側面から考えても、地域の教育への参画は大きなメリットです。コーディネーターは、市民に対して「キャリア教育」へ参加する意味と成果を伝え、理念に共感してもらって役割も担っています。

NPO法人アスクネットは
学校と地域をつなぐ専門家
「教育コーディネーター」です。



子どもたちは、実社会とつながる学びの中で多くの大人に出会います。その出会いをきっかけとして何かに主体的に挑戦しながら、成長を遂げていきます。子どもたちの成長に地域の市民が積極的にかかわることで、子どもたちは自分の住むまちに関心を持ち、かかわる大人とともに成長していきます。人とのつながりの中で人は成長し、人の成長がまちを元気にしていきます。子どもと大人、地域と学校が影響し合える「学び合いのコミュニティ」を創り出すこと。それが私たちアスクネットの使命です。

主な沿革・事業実績

- 1999年 愛知私学教育ネットとして事業開始 教育イベント支援スタート
- 2000年 愛知私学関連事業開始
- 2001年 愛知市民教育ネットに改名
市民講師ナビ事業開始
特定非営利活動法人(NPO法人)格取得
- 2002年 西尾市 ボランティア・市民活動団体活用支援データベース作成事業
- 2003年 経済産業省 市民活動活性化モデル事業
高校生のための情報誌「S-ch.001」(現「Schan」)創刊
- 2004年 全国教育コーディネーター交流会開催
(以降、毎年コーディネーターフォーラムとして開催)
愛知県 NPO提案型協働モデル事業
- 2005年 文部科学省 地域子ども教室推進事業(安城まちの学校)
日本たばこ産業株式会社助成事業「中高生のための社会起業家ナビ」
- 2006年 経済産業省 地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト(瀬戸キャリア教育)(再委託)
アスクネットに改名
教育CSR事業開始
経済産業省 チャレンジ・コミュニティ創成プロジェクト
高浜市「たかはま夢・未来塾」「たかはま子育て子育て応援養成講座」
トヨタ自動車株式会社「トヨタ子どもとアーティストの出会い」
アイシン精機株式会社「アイシン青少年環境教育事業」
- 2007年 経済産業省 理科実験教室プロジェクト
経済産業省 地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト(中核コーディネーター)
- 2008年 経済産業省 キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業(中核コーディネーター)
経済産業省 社会人講師活用型教育支援プロジェクト
経済産業省 地域新事業創出発展基盤促進事業(コミュニティビジネスノウハウ移転支援事業)
- 2009年 経済産業省 キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業(研修プログラム作成・実証事業)
愛知県 青年のための寺子屋塾事業(～2010年)
愛知県 ふるさと雇用再生特別基金 人材育成コーディネーター推進事業(～2011年)
- 2010年 内閣府 地域社会雇用創出事業ソーシャルビジネスエコシステム創出プロジェクト(SBインターンシップ事業)(～2011年)
- 2011年 産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業
- 2012年 名古屋市 協働コーディネーター等業務委託事業
緊急雇用創出事業基金事業 愛知県教育委員会委託キャリア教育コーディネーター活用事業

特定非営利活動法人 アスクネット(ASK-NET)

〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町8番5号愛知私学会館東館3階
TEL (052) 881-4349 FAX (052) 881-5567
E-mail: info@asknet.org

アスクネット
HPはこちら

<http://www.asknet.org/>

教えることは、学ぶこと。

『キャリア教育』が目指す未来

子どもたちの夢と未来をつなぎ
出会いと挑戦の教育をつくる

NPO法人 アスクネット

子どもと大人が、ともに成長し合う 学びかたがあります。

人が生まれてから死ぬまでの
生き方のプロセスのことをさす、
「キャリア」という言葉があります。

子どもたちが自らの「キャリア」について
考えるときに必要なのは、
すぐ近くにある目標だけではありません。
生き方を設計するためには、先を見る長い目が必要です。

「何のために学ぶのか？」という問いは、
大人にとっても非常に難しい課題です。
子どもたちに足りないのは、
その問題の答えを自分自身の頭で考えて、
導き出すための
いくつかのヒントなのではないでしょうか。

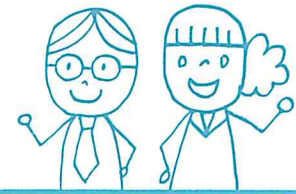
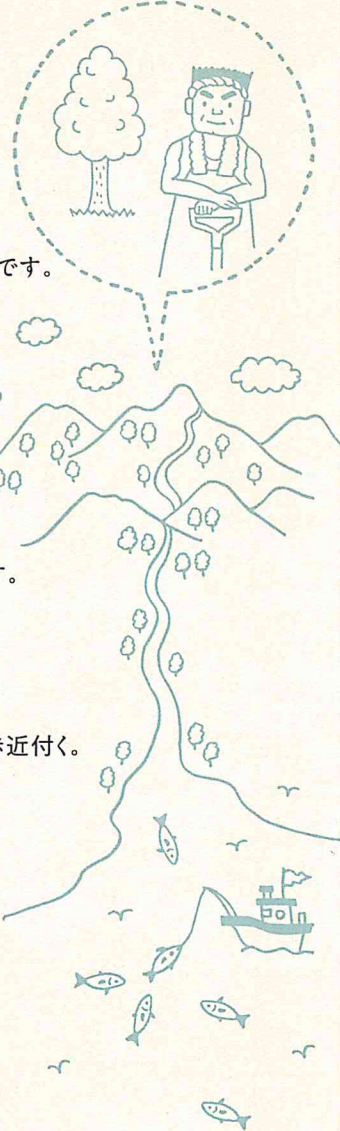
その、ヒントを与える取り組みが、「キャリア教育」です。

地域の大人ひとりひとりが、
子どもたちに「働くことの意味」を伝える。
新しい世界を知った子どもたちは、
学ぶことや働くことの意味に対して、その答えに、一歩近付く。
子どもたちの反応から、大人もまた、
自分の「キャリア」を振り返る機会を持ち、前進する。
双方が影響を与え合えるような場をつくるのが
「キャリア教育」の使命です。

これからの未来をつくってゆく子どもたちが、
生まれてから死ぬまでの生き方のプロセスづくりに
楽しんで取り組める世の中になること。
「キャリア教育」は、そのきっかけを生み出します。

今から始めましょう。次世代につなぐために。

山に登り、木を植える「漁師」がいることを知っていますか？
魚を獲ることを生業にする彼らが植林をする背景には、大きな意味があります。
1本の木は年月を経て、やがて大きな森をつくる。木々は清涼な水をたっぷり蓄えて
川を生み、のちに豊潤な海をはぐくみます。海と森がつながっていることを長年の
経験から知る漁師たちは、未来の豊かな漁場を守るために1本の木を植えることから
始めました。地道なおこないが実を結ぶのは、数十年後のこと。とても気の長い話
に聞こえます。しかし、たとえ遠回りに見えても、一番確実な効果を生む方法です。
子どもたちの未来をはぐくむ「キャリア教育」のスタンスは、木を植える漁師たちの心
構えと、どこか通じるものがあるのかもしれない。



コーディネーターの声

教育コーディネーター

コーディネーターの仕事を通して、「キャリア教育」を推し進める中で学ぶこと

VOICE コーディネーターがかかわることで、先生自身に気づきと発見が生まれ、先生が本来持っている力、培ってきた力を発揮する瞬間を目の当たりにすることがあります。キャリア教育が子どもたちの力を発揮する場を提供すると同時に、先生の力を引き出すきっかけをも作っているかもしれません。

VOICE キャリア教育の授業において、積極的な生徒の様子を見た先生から「普段はあんな子ではないので驚きました」といった感想が聞かれることがあります。先生だけでは取り組みにくい授業を作り出すことによって、子どもたちの持ついろいろな側面を知り、またその新たな可能性を引き出すことができるのも、コーディネーターがかかわったキャリア教育授業の魅力です。

VOICE 初めて子どもたちの前で講座をする市民講師は、先生の日ごろのご苦労を知ります。先生も市民講師との交流によって、地域や社会についての理解を深めます。様々な立場・役割の人が交わり理解しあうということが、結果的に子どもたちにとって豊かな学びを生み出しているのだと思います。



『キャリア教育』で 手に入れたもの

～教育環境を取り巻く大人たちの声～

教育現場で働く人と、地域で働く人。その両者をつなぐ
コーディネーター。3者それぞれが手を取り合って初めて、
「キャリア教育」の場が創り出されます。生き方について考
えるきっかけを与えられた子どもたちの姿を見て、大人たち
もさまざまな学びや気づきを手にしているようです。

多忙な先生に代わって、より広いネット
ワークから地域の教育資源を活用した授
業提案と実施をサポートします。

地域・企業の活性化と、企業の
社会貢献の機会（プログラム）を
提供します。

教育現場

VOICE 日程の調整や、時間のやりくり、打ち合わせ、備品の準備、当日のサポートなど、「キャリア教育」を実行するために必要な仕事は膨大です。日々の業務の合間からその時間を捻出するのは至難の業でした。コーディネーターがいなければ、たとえ必要性を感じていても、実現するのは難しかったと思います。

VOICE 「子どもたちが立派な社会人になるために」。それが、教育の本質だと思っています。「キャリア教育」は、その本質につながっている。日々の忙しさの中で忘れがちな意識を、呼び覚ましてくれる気がします。

VOICE 講師として学校を訪れた地域住民の方と話をするうちに、「誇りを持って働く」ということの本当の意味を知りました。自分も刺激を受けて、子どもたちにも感銘を伝えることができる。「キャリア教育」で一番成長するのは、教師かもしれません。



教員の声



地域社会

VOICE 子どもたちに自分の会社や仕事について説明してみても、改めて自分の仕事に対する思いをふりかえることができました。

VOICE 「自分と仕事」「会社と地域」ということについて、深く考えるきっかけとなりました。もともとの狙いだったCSRは、いくつかの目的のうちの一つになりました。

VOICE 地場産業を、子どもたちにアピールできる貴重な機会です。「キャリア教育」を通して、地域の中から伝統工芸や地場産業の次世代の担い手が現れたら、素晴らしい成果だと思います。

VOICE 私たちの業界を目指す若い人たちに対して、ちゃんと憧れられる大人でありたいという責任を感じました。自分たちが業界を盛り立てていかなければ…という使命感も。



市民講師の声 参加した企業の声

